

医科からのメッセージ

全身に与える 歯科材料の悪影響を 考える



X線やCT、血液検査など従来の西洋医学的な検査のほか、「ゼロ・サーチ」という波動医学的診断装置を使って病因を推定し、難治性疾患の患者さんを中心に診療している矢山利彦氏。食生活を含め、さまざまな観点から疾患の原因を探っているが、その中でも歯科(材料、咬合など)の問題が大きな比重を占めると考えているため、医科・歯科の統合治療を目指すバイオレジナンス医学会も立ち上げている。ここでは、特に歯科材料の問題に焦点を当てて話を伺った。

医療法人山桃会
Y.H.C.矢山クリニック院長
矢山利彦 氏
Yayama Toshihiko

九州大学医学部卒。卒後救急医療を中心とした診療に携わり、漢方薬、鍼灸などの研究・実践を経て、九州大学医学部第2外科に入局。大学院博士課程にて免疫学を学んだ後、佐賀県立病院にて好生館外科医長、東洋医学診療部長を歴任。2001年にY.H.C.矢山クリニックを開院した。バイオレジナンス医学会理事長。

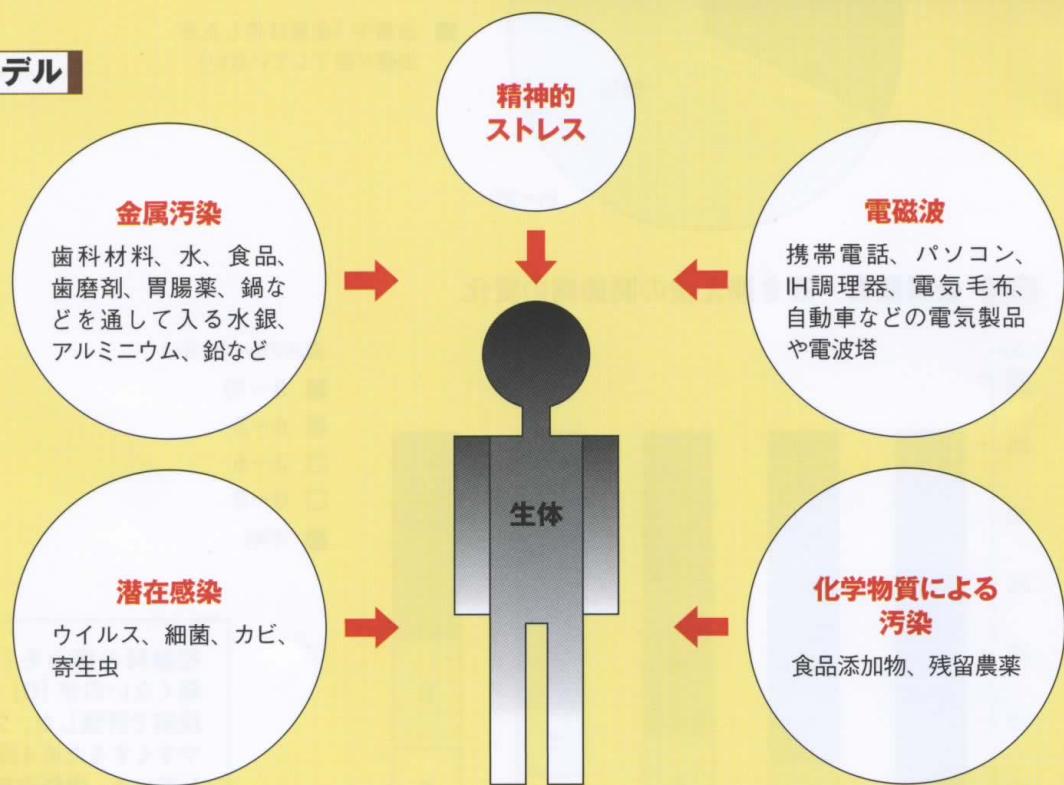
Y.H.C.矢山クリニックとは Y=ヤマト(クリニックの所在地名) H=ホロトロピック C=センター

診療方針

歯科・外科・内科・リウマチ科・アレルギー科があり、医科・歯科、西洋医学・東洋医学を統合して診断・治療に当たる。



疾患モデル



着目のきっかけ

歯科材料の電圧は驚くべき数値

先生は、全身の慢性的な不快症状と歯科材料との関係に着目していると伺つたのですが。

矢山 心電図の検査では、電圧が3.5mVを超えると「心肥大」と判定されるのに、口の中の歯科金属の電圧を測つてみると、平均350mV以上でした。これは医師の立場からすると驚くべき数字で、以降、歯科金属の影響に着目するようになりました。

実際、口の中の歯科金属から電流(ガルバニック電流)が検出された患者さんの身体から一時的に電流を除去すると、90%以上の人の頭痛、頭の重量感、肩凝り、目の疲れ、だるさ、腰背部の痛み、膝痛、手足の冷えなどが半分以下になります。

なぜ、歯科金属がそれらの症状と関係するのでしょうか。

矢山 おそらく、ガルバニック電流が持続的に交感神経の緊張状態を引き起します。これが原因だと思われます。西洋医学や

金属撤去・置き換えによる慢性関節リウマチの治療効果

図1 置き換え後の患者さんの口腔内の歯科材料

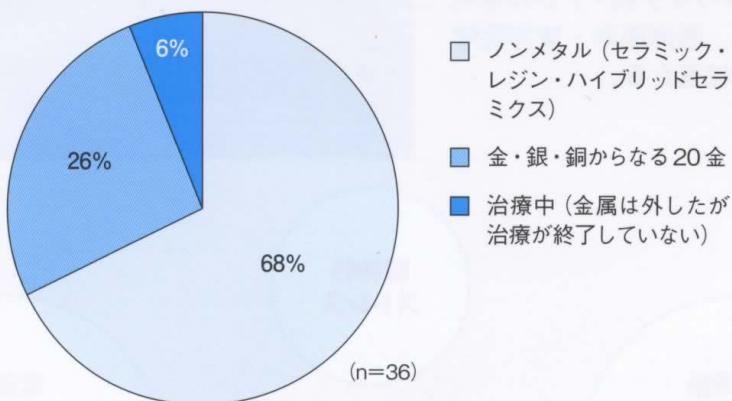


図2 金属撤去・置き換え後の関節痛の変化

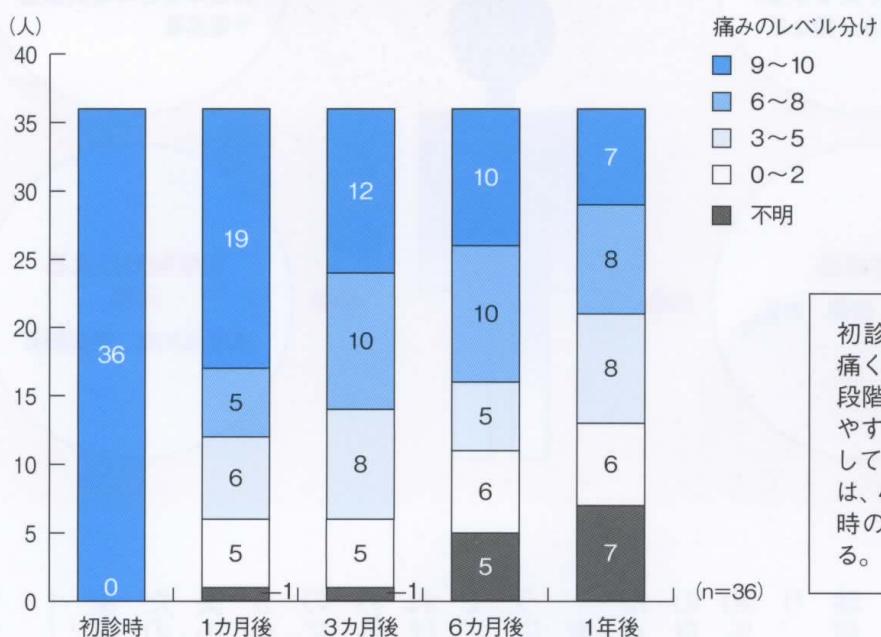
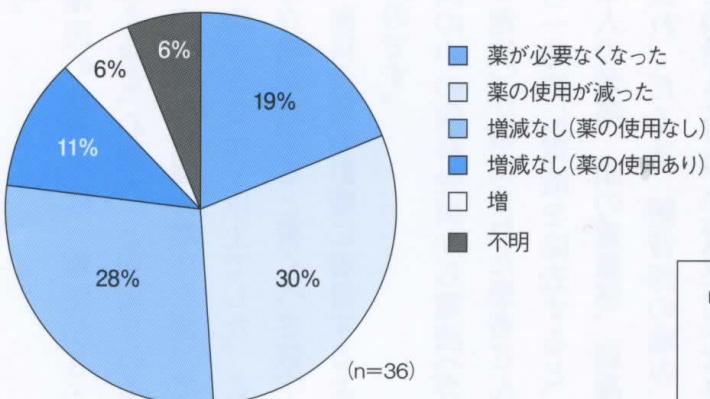


図3 リウマチ使用薬の増減



リウマチ使用薬：
消炎鎮痛剤・抗リウマチ薬・
免疫抑制薬・ステロイド薬



クリニックの中にある、無農薬・無添加の食料を使った自然食レストラン。おいしいと評判。

医科の待合室。



漢方薬による治療を行ってもなかなか治癒しない場合、この交感神経の持続的緊張が身体の治癒力を低下させていることが、セリエのストレス説から考えてもほぼ間違いないでしょう。

身体は異物と判断し、免疫系等に狂いが生じます。そこで、リウマチなどの症状となつて現れるのではないかと考えています(図1～3)。

このことは、大学レベルの研究機関でしつかり研究してほしいと思っていま

す。
——歯科金属の問題が疑われた場合、撤去によつて身体の不調が解決することが多いのでしょうか。

矢山 金属は関節を中心に体内に蓄積していることが多いので、排出することも

考えなければなりません。

——排出するための方法には、どのようなものがありますか。

矢山 金属イオンの反応点を遮断して金属を取り込み、安定した結合体として排泄するEDTA（エチレンジアミン4酢酸）を投与するキレーショングループ治療が有効です。だいたい、10回ワンクールと考えています。腎機能が低下している患者さんは投与できないといったこともあるので、漢方薬も使っています。

全身への関与が疑われる歯科の問題

根尖病巣、咬み合わせ、 口呼吸：

——その他、全身に関与していると考えられる歯科の問題はありますか。

矢山 これは最近では一般にも知られていることだと思いますが、根尖病巣から細菌が徐々に流れ出して、身体の他の部位に炎症を起こしているケースです。ご存じの通り、心内膜炎、糖尿病のリスクが高くなります。

また、咬み合わせがずれると、背骨のバランスが崩れ、ずれた背骨が内臓へ通う神経を圧迫し、血液の流れが悪くなつ

た所に病気が生じやすくなつてしまいま

す。

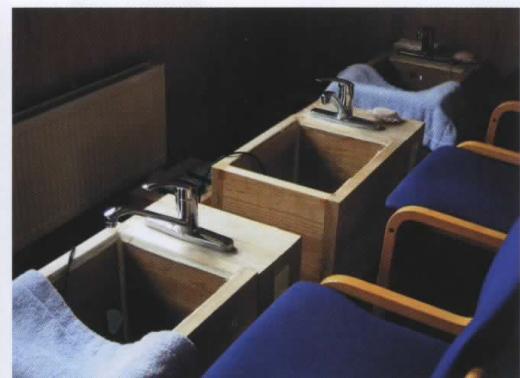
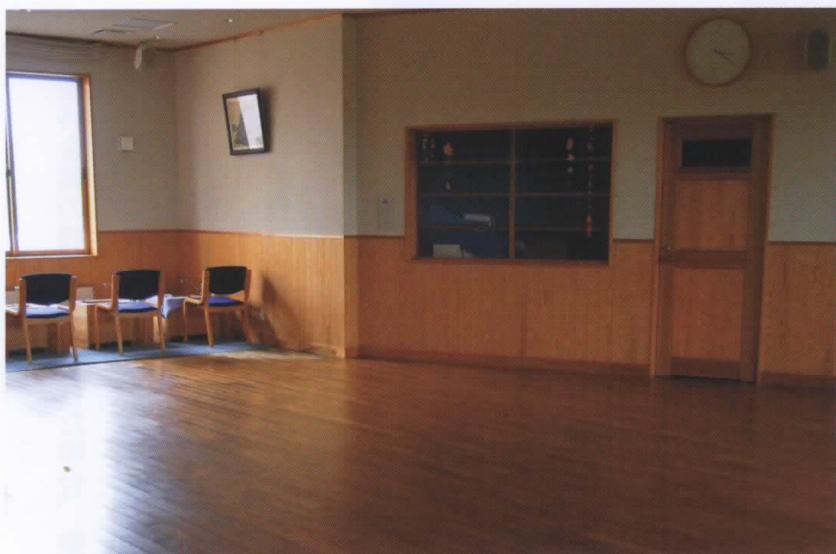
口呼吸も問題です。鼻呼吸では、空気

は鼻腔を通ることでフィルターにかけられ、体の中に菌が入りにくくなるのに対し、口呼吸が癖になっている人は直接空気が喉に入るので、扁桃に細菌感染を起こしたり、口腔内が乾きやすくなつて、う蝕や歯周病が出来やすくなるのです。

いずれにしても、私の考える疾患モデルにおいては、歯科的な要因は非常に大きな問題の一つと考えています。



金属を排出するために用いている点滴「EDTA」。



左／リハビリや気功教室のためのスペース。
右／窓際にはナノバブル足浴も。



- ・バキューム2本
+
- ・口腔外バキューム
+
- ・排唾管

ユニットには、交感神経をリラックスさせる効果のある『快気眠シート』(オリジナル)を敷いている。



歯科材料の影響と撤去時の注意

Y.H.C.矢山クリニック・歯科 佐藤 晃氏

・身体に悪影響が大きいと感じる材料

異物に対する許容量は個人差がありますが、アマルガムとホルマリンは2大悪と感じています。フッ素、パラジウム、種類によってはレジンも悪影響を与えている場合が多いようです。

全身の抵抗力が落ちている患者さんも、身体から異物を取り除いていけば自然治癒力が働きやすくなるということは、撤去後、医科での患者さんの体調確認で臨床的に実感しています。

・金属撤去時に気を付けている点

金属撤去時には、空气中に金属片が飛散します。そのため、患者さん、術者ともに、それを吸い込んだり、皮膚や粘膜を通して体内に入れたりしないように気付けています。

具体的には、つばが大きい口腔外バキュームを使い、換気を良くし、空气中に飛散する金属粉を減らします。術者やアシスタントはゴーグルをかけ、患者さんの顔をタオルで覆います。また、アシスタントは常に口腔内に注水をして、金属粉を洗い流すようにしています。

・金属撤去後の患者さんからの声

金属を撤去することにより、交感神経の緊張が取れるようです。その効果は患者さんも実感しています。

具体的には、「肩凝りや腰痛・頭痛、しびれなどが軽くなった」「唾液がよく出るようになった」「皮膚の湿疹がなくなった」「舌のビリビリ感がなくなった」といった声が聞かれます。

症例1

金属の体内沈殿が疑われた①

[主訴]

肩凝り、腰痛、膝痛、じんましん

[診断]

口腔内に多数の金・銀の補綴物が認められ、歯の連結も確認できた。身体の中に金属が沈殿していることが予測されたため、『生体電位平衡器』(オリジナル)を使って一時的に放電し、様子を見るに。

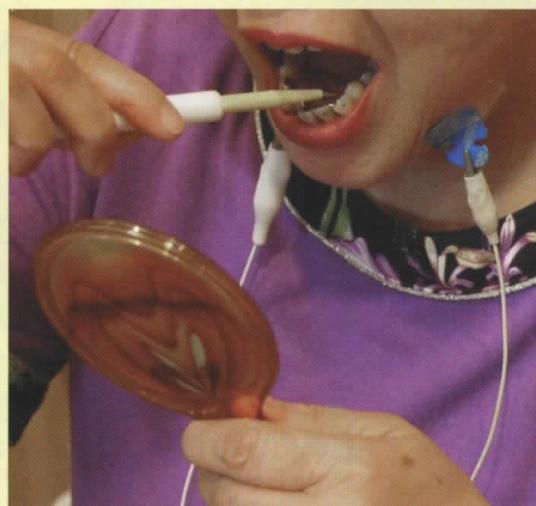
じんましんについては、寄生虫の存在が疑われた。

	放電前	放電後
口腔内で最も電圧が高い場所	18mA 270mV	3mA 70mV
本人の自覚症状 (感覚的な数値)		
・肩凝り	10	7
・腰痛	10	5
・膝痛	10	5

金属撤去によって主訴が軽減する可能性と、歯の連結も何らかの悪影響を与える場合が多いことを説明した。生野菜、果物、牛乳などの乳製品、養殖の刺身を控えるよう指示し、排毒のための漢方薬を処方した。



左、右／『生体電位平衡器』を使って、患者さんの身体から一時的に放電しているところ。



症例2

金属の体内沈殿が疑われた②

[主訴]

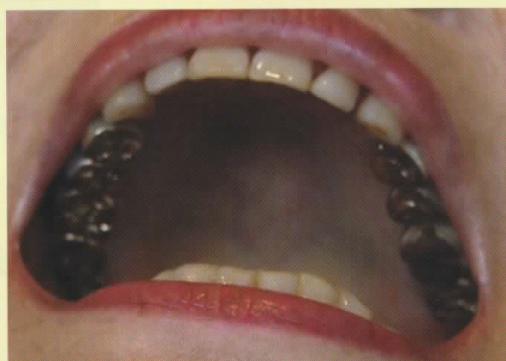
首の凝り、胃が重い

[診断]

口腔内に多数の金属性の補綴物が認められ、身体の中に金属が沈殿していることが予測されたため、『生体電位平衡器』を使って一時的に放電し、様子を見ることに。

	放電前	放電後
口腔内で最も電圧が高い場所	20mA 230mV	2mA 50mV
本人の自覚症状 (感覚的な数値)		
・首の凝り	10	5
・胃が重たい	10	3

金属撤去と排毒によって主訴が軽減する可能性を説明した。



症例3

根尖病巣の影響が疑われた

[主訴]

目の周囲の違和感、消化器が弱い

[診断]

パントモをチェックすると、根尖病巣に菌がたまり、目にジワジワと流れている可能性が示唆された。また、ストレスによる全身の機能低下も原因と思われた。

根尖病巣の治療により、目の周囲の違和感が改善する可能性が示唆された。排毒のため、漢方薬を処方した。

